

マネジメントイノベーションを実現するマネジメント体系図

企業の各部門でマネジメントイノベーションを実現するためには、重要な管理業務についてVMボードで見える化して、VMの神髄と呼ばれる4つのマネジメントの視点からイノベーションを実施する必要があるが、そのためには、各部門の実現すべきマネジメントイノベーションの重点、すなわち、変革すべきマネジメントの内容について明らかにする必要がある。管理技術のイノベーションの点線で囲まれた8つの部門のところに書か

れている内容は、高次元のモノづくり企業として実現すべきマネジメントのあり方を要約したものである(図1)。VMボードによるマネジメントイノベーションの推進によりマネジメント力・管理技術力・固有技術力の向上やプロダクトイノベーションなどの各種イノベーションの実現などの定性的な目標を達成することができるが、高次元のモノづくり企業になるためには、全社的に5Sを含むVM活動を推進してVM-FMS(Visual

図1 VM導入によるマネジメントイノベーション体系

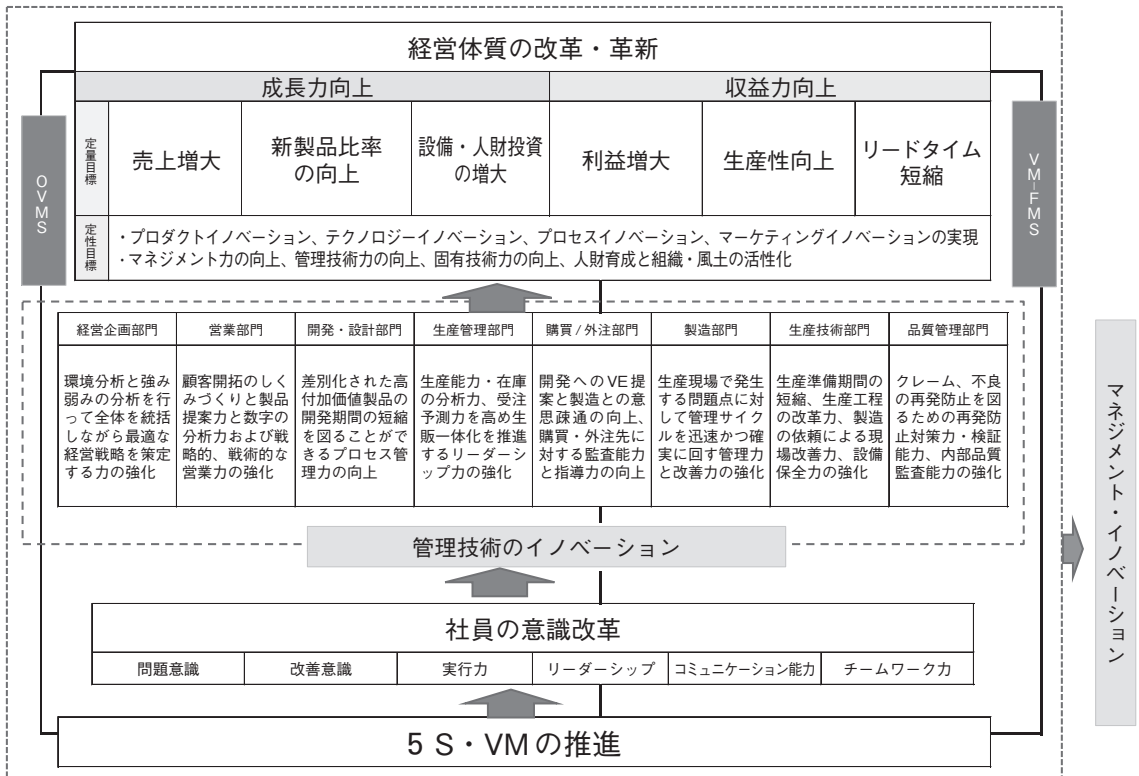
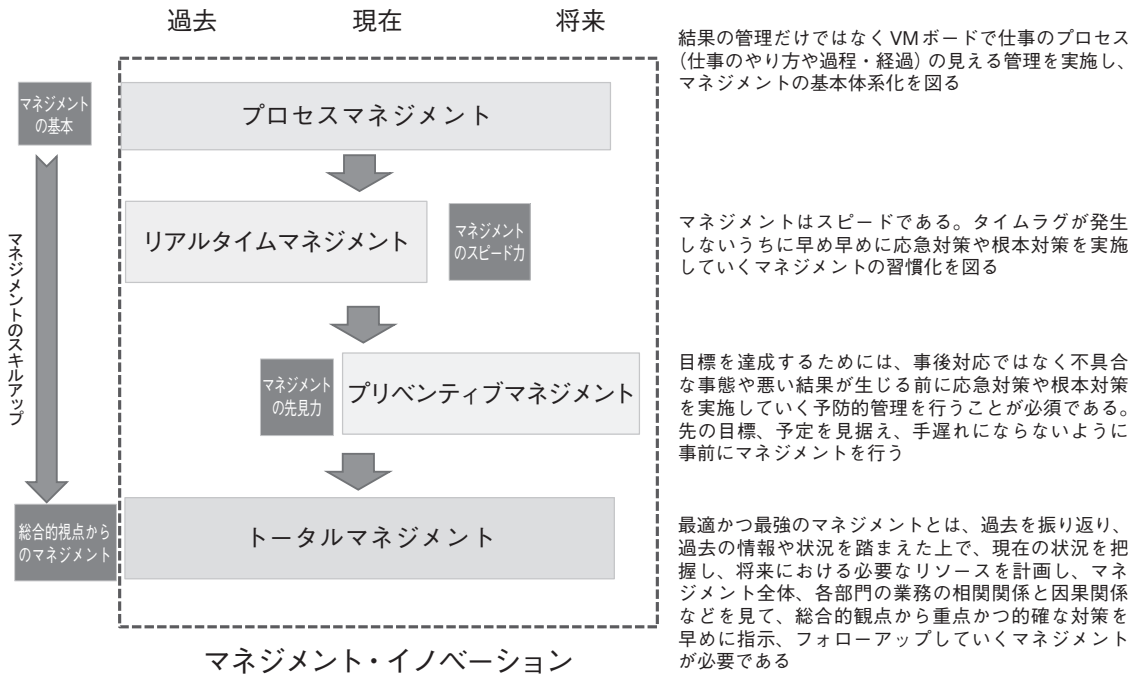


図2 VMの神髄=4つのマネジメントによるマネジメント・イノベーション体系



Management-Flexible Manufacturing System = 見えるフレキシブル生産システム)とOVMS (Office Visual Management System =見えるオフィスマネジメントシステム)を構築することが必要であり、これによって全社員の意識改革が図られ、定量目標と定性目標が達成されて成長力と収益力が向上し、終局的に経営体質の改革・革新が実現される。

VMにはVMの神髄と呼ばれる4つのマネジメントがあり、VMボードを活用して、重要な管理業務について使い分けをしながら以下に示す4つのマネジメントを実施していくことが必要である(図2)。

(1) プロセスマネジメント

マネジメントの基本であるPDCAサイクルを的確に回すことによって目標達成率を高めて業績を上げることが必要不可欠な重要管理業務に対してはプロセス管理を徹底的に実施することが管理・監督者のマネジメント力を高めるためにも必要で

ある。

(2) リアルタイムマネジメント

早め早めに応急対策や根本対策を実施しないと計画や目標が達成できない管理業務や早く対処しないと問題が大きくなって取り返しがつかなくなるような管理業務に対してはできるだけ早くPDCAサイクルを回すことが重要である。

(3) プリベンティブマネジメント

常に先行きの受注・開発・生産・調達状況などに関しては、潜在的な問題点やリスク要因などをクローズアップして今から取るべき対策について立案、実施する。

(4) トータルマネジメント

年度および中期の経営戦略計画を策定する場合は、戦略VM、収益VM、組織横断VMなどを実施しながら全体最適の視点から戦略、課題、対策について構築する。

(五十嵐 瞭)